

## プロジェクト概要

### プロジェクト地域

本プロジェクトの対象海域は、北海道の道南に位置する函館市根崎地区の沿岸海域である。



### 函館真昆布の名産地

函館市は昆布の生産量「全国一」を誇り、本プロジェクトの対象である根崎地区の沿岸は、函館市の主要な昆布産地である白口浜、黒口浜、本場折のうち本場折浜に位置し、古くから昆布漁が盛んな地域である。



#### 本場折浜昆布

大きさと長さがあり折昆布に仕立てられることが名前の由来

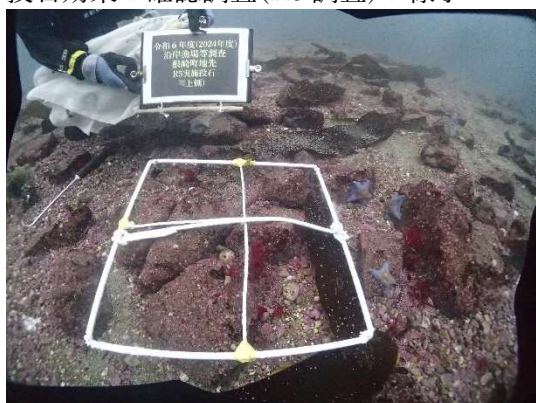
写真 [週刊水産新聞より](#)

### この地域の特長と歴史

根崎地区の沿岸は、暖流と寒流の混合海域である津軽海峡に面しており、暖流系、寒流系の両方の多様な海藻類が確認される地域である。昆布、ガゴメ昆布の養殖は岸から 2km までの水深 10～20m の海域に養殖施設を設置して営まれており、10m 未満の海域(平磯)については天然藻場として豊富な生物資源を有している。天然藻場について函館市史\*によると根崎地区を含む銭亀沢の海藻分布に関する研究(志海苔海岸での新藤(1972))では緑藻七属七種、褐藻一六属二一種、紅藻三九属五七種、海産顕花植物(海草)二属二種、合計八七種が記載され、国内で北限とされる種の分布も確認されるなど天然藻場保全の面で重要な地域である。

函館市史によると当地域では、昭和 46 年頃から昆布養殖(促成)が開始され、昭和 48 年に策定された「渡島東部地域沿岸漁業構造改善計画書」によると養殖活動とともに投石による天然資源の増加策が計画の一部として確認出来ており、当地域では約 50 年もの間、藻場保全の取り組みが続けられている。

#### 投石効果の確認調査(R6 調査)の様子



養殖コンブの生産工程は下記の通り。

- ・母藻の採取～あん蒸（じょう）（8 月中旬頃）
- ・種苗生産（8 月下旬頃）
- ・仮殖～種付け（10 月中旬～11 月）
- ・本養成（12 月～6 月）
- ・水揚げ（7 月～8 月）
- ・整形作業、製品規格に合うよう加工して出荷する。

#### プロジェクト内容

近年は海水温の上昇といった海洋環境の急激な変化等により、天然コンブ資源が大幅に減少し、漁獲量減少や品質も低下する傾向にある。さらに燃油価格や資材の高騰により、漁業経営は深刻な影響を受けている。この影響は、昆布漁とともに漁業者の負担で続けられている藻場の保全、回復活動にも影響を及ぼし、当地域で継続してきた藻場保全を停止した場合、高い確率で天然藻場は減少し、生態系への影響および CO2 吸収源の減少を招くと考えられる。

本プロジェクトでは函館市根崎地区沿岸で行う昆布養殖活動による藻場の創出・保全を気候変動緩和策として行うほか、天然昆布藻場の再生を促す繁茂対策に取り組む。また、天然藻場の繁茂状況や繁茂対策の効果を測定するため水中ドローンを活用した資源量調査にも取り組む。加えて、地域の小中学生を対象に昆布漁体験を通じて海洋環境の変化による産物への影響など地元の海に関する理解を深め、環境保全について考える機会として体験学習

会を行った。

本申請期間は、生産期間である 2024 年 10 月～2025 年 9 月を申請対象とした。

#### 申請対象期間に実施した活動の概要

本プロジェクトでは、養殖コンブ漁業による活動のほか、天然藻場の繁茂に関わる活動を行った。

##### ① 養殖昆布漁業による CO<sub>2</sub> 吸収（根崎支所）・・・通年

昆布養殖は、まず室内で種苗を育成し、育成した種苗を実際の海に慣らす、仮殖～種付けを行い、養成綱に種苗糸を挟み込む本養成を行う。本養成では成長促進を目的として、1 株当たり適正な密度とする間引きや育成する水深の調整を行い養成綱ごとに水揚げを行う。



##### ② 天然コンブ繁茂活動（根崎支所）・・・10月～12月

天然コンブ藻場創出にかかる取り組みとして投石を行った。

##### ③ 海洋教育活動（根崎支所、海藻活用研究会）・・・8月

函館市内の小中学生を中心に根崎支所と海藻活用研究会が連携して昆布漁体験と昆布の生育に関する学習会を実施した。海藻活用研究会は北海道大学などの研究機関と漁業協同組合などの生産者と企業と行政機関で構成される団体である。



#### ④ 天然藻場調査・・・9月

水中ドローンを用いて海域の天然藻場の繁茂状態を調査した。水中ドローンを用いた天然藻場の調査はダイバーによる調査と比較して実施し易いことから、藻場調査の標準手法としての期待も大きい。



プロジェクト実施開始日 2017 年 10 月～現在